

「以 心 伝 心」

明星学園 宮下 智

この春のこと、恒例の保育士養成校の実習生が来園している。多くの実習生は長野県内の短期大学幼児教育科系の学生さんで、ちょうど一年生の二月～三月が春の実習期間に当たり、その実習の名が示す通りに保育士の資格を取得するために知的障がいのある事業所に十一日間の泊まり込みの実習にやってくる。

保育士養成校には、例えば飯田女子短期大学というような大学ですが、皆さん小さいころからの夢、「保育園の先生になりたい〜！」を実現したくて入学した方が圧倒的に多数なので、良く小さい頃、女の子たちに大きくなったら何になりたいですか？なんて聞くと、みんなが大きな声で答えるそんな夢ですが、知的障がいの入所施設での実習は、保育士の資格を取るために大きな不安を抱えながらしょうがないけど単位を貰うためには頑張っ来なくちゃいけないところということになります。

それでもこの実習を機会に、それまでには考えてもみなかった知的障がいの施設で働くことが魅力になって就職するなんて方もいないわけでもないですから、なかなかこの実習機会、捨てたものじゃありません。

ただ残念なことに、一年生の時の実習ですから、不安が大きいのが当たり前、さらに一年生時には短期大学のカリキュラムには障がい関係の授業は全く用意されていませんから（文部科学省のルールがそうなっている）、全く障がい系の知識、経験がないまま事業所にやってくるということになります。

さて…。



保育士養成校の実習生が来園している。メンバーさん方にとってはまたとないコミュニケーションの練習の機会だ。職員というような何でもわかってくれようとする立場とも違う、また奇異な目で見る見知らぬ地域の人とも立場が違う、ちょうどその中間に位置するような立場の人だからだ。職員との間で培ってきた日頃のコミュニケーション能力が、全く新しい人に通用するかに挑戦できる場なのである。しかもコミュニケーションのモチベーションはどのメンバーさんもかなり高くなっている。コミュニケーションはまずは伝えたいというモチベーションが基礎を成す。どんなにしゃべることができる能力があっても、伝えたいという気持ちが育っていなければ、あるいは伝えてもいいんだという場の雰囲気がないと、コミュニケーションは進展しない。実習生は二十歳足らずの女の子である、少なからずこの要素がメンバーさん方全員のコミュニケーション意欲を高めている。



Y男さん、彼はしゃべることで上手に思いを伝えることができない。でも彼は何とか実習生とお話しがしたかった。彼の強み（ストレングス）は歌を歌えることにある。発音はやや不明瞭であるがメロディーや音程は正確なので、たくさん歌を知っている人にとっては何の歌を歌っているのかはわかりやすいと言えるだろう。

実習が始まって何日目かのこと、実習生に信頼を置き始めたのだろう、Y男さん、実習生に勇気をもって近づいた。そして、「大きな栗の木の下で」を鼻歌とも歌とも取れぬ声で歌い出したのだ。

実習生の頭の中はフル回転だ。なんてたって実習生オリエンテーションの場で園長先生に、「歌を歌うことで本当の気持ちを伝える方がいるから、ただ一緒に歌を歌っていれば係わりだなんて思っていちゃいけないよ、それは質の低い支援だよ」と言われているからだ。「繰り返されている歌には、必ず意味がある。その歌が好きだという理由が必ずある。歌全体を好きっていう場合もあるけれど、その歌詞、ある一部分の歌詞が今の自分の気持ちにぴったりなんていう理由で繰り返される時もある。また、その歌全体の意味がその方の伝えたいメッセージになっているなんていう時もあるんだよ」と。

実習生は考える。

えっと歌詞は…？「大きな栗の木の下で あなたと私 仲良く遊びましょ 大きな栗の木の下で」そうか、「仲良くしたいって言っているんだ」

実習生は答える。

「私も仲良しになりたいなあ、迷惑だなんて思っていないよ、いやだなんて思ってもいないよ、どんどん仲良く

なろう」

知的障がいの方の多くが、自分は好かれるに値しない人間だと思っている可能性はかなり高い。ましてやY男さんには排泄の失敗や弄便が時々あり、その汚さが(かなり主観的なものですが)心の抵抗を生んでいる可能性もかなり高い。さらにもっと言えば、上手にしゃべることができない知的障がい者が十分にしゃべることができる、知的にも標準な若い女の子と仲良くしたいという気持ちを持っていいのか、仲良くしたいと伝えた時に、快く「良いですよ」と答えてくれるか、そんな気持ちを全部引き受けながら、実習生の「迷惑だなんて思っていないよ」の言葉がある。

すると今度は彼が歌で会話を返す。

♪まいごのまいごの子ネコちゃん あなたのおうちはどこですか♪

また実習生が考え込みます。

えっと歌詞は…? 「おうちを聞いてもわからない 名前を聞いてもわからない」 そうか、「名前を教えて欲しい」ってことなんだ。

「〇〇市から来ました。〇〇といいます。〇〇短期大学の一年生です」

〇〇市は偶然彼の出身と同じでした。何回も歌っていた犬のおまわりさんの歌を簡単な自己紹介を実習生が伝えてからは、実習生に歌わなくなった彼です。

一方でM男さん、明日が実習の最終日という日、おもむろに彼が歌い出したのは、♪わたしからあなたへこの歌を届けよう♪ でした。

ちょっと懐メロ過ぎて実習生には何の歌かわかりません。職員も初めて彼が歌ったその歌の意味が解りません。皆さんは、おわかりですか?

気になって、どうしてもその歌の意味を知りたかった実習生は、宿舎に戻ってさっそくスマートフォンで歌詞を検索しました。そこにはなんと驚きの歌詞が、「わたしからあなたへ この歌を届けよう 広い世界にたった一人の 私の好きなあなたへ」実習生の目から涙がこぼれます。続く歌詞は、「別れゆくあなたに この歌をとどけよう 淋(さび)しい時に歌ってほしい 遠い空からこの歌を」実習生はもう号泣です。

十分なことは何もできなかったと思っている実習生、そんな実習生の精一杯の十一日間に送る財津和夫の♪切手のないおくりもの♪、感謝と思いやりの気持ちのプレゼントでした。

M男さん、今の目標は、ギターを弾きながら♪切手のないおくりもの♪をみんな一緒に歌うことです。「ギターは高いし、難しいし、そうだ!ウクレレギターにしよう!」だなんてみんなで笑って言いながら、今年の十二月にはステージで披露しようと音楽療法の先生方と一緒に練習を始めています。

彼らの生活は、このようにやさしさに満ち溢れています。ただしそれを感じるのには必須の条件があります。それは、彼らの行動やしぐさをコミュニケーションの発信だと受け止め、何かを伝えようとしている何らかのサインだと感じる事ができる感性です。

♪犬のおまわりさん♪をただ好きだから歌っているのではない、「名前を教えて欲しいなあ」を伝えたくて歌っているとすることができる感性、「一緒に歌って欲しいなあ」と思って歌っている♪切手のないおくりもの♪ではなく、この十一日間の実習に対する感謝を伝えたくて歌った♪切手のないおくりもの♪だと感じる感性、それを持つことが彼らのやさしさに触れることができる条件なのです。

さて、問題です。

問い(1)

どこの事業所でも暴れてしまってうまくいかなかったT男さんが入所当時一日何回ともなく職員と歌ったアンジェラ・アキ「手紙~拝啓十五の君へ~」で伝えたかったものは?

問い(2)

入所して三年、すっかり穏やかな生活を手に入れたK子さんのリクエスト、いきものがかり「♪歩いていこう♪」で伝えたかったことは?

WELCOME TO SATORU WORLD

障がい者支援施設 明星学園における心のケア

<http://myojo-satoru.life.cocan.jp>